

各位



公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会

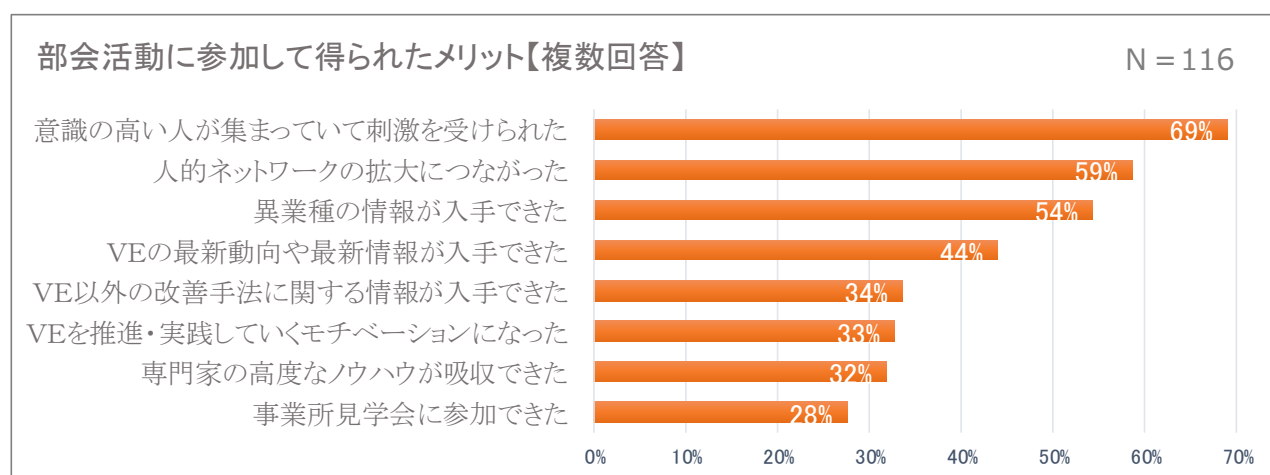
東日本支部 支部長 薄衣 光明

東日本支部 2020 年度部会メンバーの募集について

関東以北を主な活動エリアとする東日本支部では、事業所見学会や特別講演会などを定期的に開催しているほか、切り口が異なる6つの「部会」を編成し、実務への応用展開を目的とした研究開発と情報交流活動を積極的に進めております。

毎年、この部会活動には150名近い方々が登録され、V Eの専門家による手厚い技術サポートのもと、下記のようなメリットが得られると高い評価をいただいております。

新年度を迎えるにあたり、2020年度（2020年4月～2021年3月）の活動メンバーの登録を広く募集いたします。この機会にいずれかの部会への登録をご検討いただければ幸いです。



2020年2月実施 「部会活動に関するアンケート調査」より

◆ ご登録にあたって ※ご登録は一人2部会までとなります

- ・ **参加型の情報交流活動につき、メンバー登録だけのご参加はご遠慮ください。**
- ・ V Eに関連した具体的なテーマで研究討議を行いますので、V Eリーダーまたは同等レベルの基本知識をお持ちの方の参加をお勧めしております。
- ・ 正式登録前の仮登録や「お試し参加」も大歓迎です。事務局までお気軽にご相談ください。

◆ 部会活動への参加費用について

- ・ 会員（法人・個人）および官公庁・行政機関の方は、部会への登録をはじめ、支部が主催する事業所見学会や特別講演会、部会内の研究活動に参加するための費用はすべて無料です。
- ・ 上記以外の方は、お一人様 30,000 円（消費税別）の部会登録料を申し受けます。

◆ 登録方法と締め切り ※事務局宛に添付の登録申込書をEメールまたはFAXでお送りください。

- ・ 4月中旬から下旬にかけて各部会のキックオフが予定されているため、メンバー登録の受付期間を **4月10日まで** とさせていただきます。
- ・ その後も随時登録を受け付けますが、部会運営上、できるだけスタート時点からのご参加をお勧めいたします。



2020 年度 各部会の活動概要

マネジメント部会

対象者: 令和時代に求められるVE手法の開発に関心のある方

主 査: 関田 力 [CHIKARIZE 代表]

新しいビジネスモデルの発想を、天才に頼ったり、偶発的にではなく、より効果的・効率的に生み出すVE手法の確立を目指しています。18/19年度の活動において、「逆流VE」という新たな手法を開拓してきました。20/21年度でもこれを継承し、本手法の確立に挑戦していきます。20年度では、これまでに開発された手法・プロセスの精度向上と検証を主軸に活動していきます。令和の時代に入り、VEにも新たな適用範囲が求められており、新時代に即した手法・ツールの開発が不可欠になっています。本部会では「逆流VE」の確立とともに、新時代にも通用するVEへの進化も追求していきます。共に学び、研究をしていただける意欲のある皆様の参加を期待しております。

・研究テーマ: スタートアップへのVEの適用

・2020年度目標: ビジネスアイデア創出手法としての“逆流VE”の精度向上、および実践・検証

・初回会合: 4月17日 14:00~17:00(日本VE協会大会議室)



VE推進部会

対象者: VE活動の推進、人材育成・教育研修などに携わる方

主 査: 大橋 守 [日立金属株式会社 技術開発本部生産技術部]

原価低減、原価企画活動等の活性化のために、VE推進に関わる課題について、月1回2つの研究会と年1回の工場見学研修会を行っています。「VE普及推進研究会」では、普及推進のための課題解決として、「VEチームのためのモチベーションアップ」について研究していきます。今年度は新たに、一話完結テーマによる意見交換会も同時間内で行います。「VE実践活用研究会」では、実践に役立つ研究として、「アイデア発想技法とファシリテーション」をテーマに、発想技法ごとの利欠点や活用法、アイデアをうまく出させ適用するまでのファシリテーションについても研究していきます。今年度は新たに、メンバーからの事例紹介も同時間内で行い、実践研究につなげていきます。是非、一緒にVE推進上の課題を解決していきましょう。



マーケティング部会

対象者: マーケティング、企画業務に関心のある方(未経験者歓迎)

主 査: 神田 之裕 [株式会社リコーテクノロジーズ 経営管理本部]

昨年度まではモノからコトのターゲティングを実践し、その結果、新たなビジネスチャンスの探索にも活用できそうなことがわかって来ました。具体的には、事業企画を立案する際やビジネスのアイデアを創出した時に有効なプロセスと考えています。このプロセスを「VEターゲティング」と名付け、実践結果をもとにアウトプットとして発行し、世の中のターゲティング実施者が誰でも容易に実施できるようなマニュアル化も併せて提案することを目指して活動しています。今年度は「VEターゲティング」プロセスを起点に活用の範囲を拡大していき、世の中における価値創造活動の一助となりうるプロセス研究に取り組んでまいります。



R & D 部会

対象者: 新しいVE手法の創造、VEの実践、研究開発・設計部門の方

主 査: 野嶋 泰資 [株式会社IHI 航空・宇宙・防衛事業領域]

これからの時代に対応するため、関連手法を含め探究・研究・開発を行います。今年度は以下の2テーマを取り上げます。参加メンバー皆様の役に立つことが第一です。多くのご参加をお待ちしています。【初回会合: 4月21日(火) 13:00~全体会、14:00~ 未来洞察】

1. 未来洞察を活用した企画 VE 研究チーム (リーダー: 渡邊)

未来洞察は、対象テーマの5~10年後を想定する従来の進め方に加え、社会がどのように変化するかも想定し、対象テーマの将来像を描く方法論です。企画段階のVEに適用することで、予測困難な現代にも通用する、潜在的な顧客要求の抽出方法構築を目指しています。2年目の今年は、昨年の勉強会の結果を踏まえ、企画VEにつなげる手法を検討する予定です。

2. VE 実践のための手法研究チーム (リーダー: 皆川)

VEの実践経験が少ない方にも役に立てて頂けることを第一に考え、過去に研究されたVE資料を活用し、VE実践のための手法の研究を行います。第1弾として、VEの重要なステップでもある機能定義について、昨年度発行されたVE特別資料「機能定義の道具」を活用し、各手法の実践検証をしていく予定です。



- 現場に行って、観て、考える -

ものづくり部会

対象者: サプライチェーン全般における「ものづくり」に携わる方

主 査: 宮田 徹〔日立建機株式会社 人財開発センタ〕

これまで、製造業の「ものづくり」は日本発展の原動力でした。ところが、現在は MaaS、SaaS など大変革の時代を迎え、ものともが協調してサービスを提供する「ことづくり」が進んでいます。しかしながら、「ことづくり」にとってもその目的である「使用者の利便性」を追求することが基本です。

当部会では、VE の基本である目的志向の原点にたち、様々な業種の現場に「行って」、現場・現物・現実を「観て」、原理・原則などを「考える(学ぶ)」ことによって、ものづくりを勉強するとともに、ものづくりを通じて将来の価値創造のヒントを考えます。

ものづくりにご興味・関心のある方、異業種を通じてヒントが欲しい方など、VE および ものづくりの初心者から幅広く募集します。

●活動の流れ [1 話ごとに完結]

見学テーマと見学先の選定 → 情報収集による事前学習 → 見学 → まとめ(報告書)

●2020 年度の見学テーマ案

- ①加工技術の進化 ②生産性向上(IoT、自動化、協働作業など) ③物流改善 ④ESG
⑤人財育成、技術の伝承(AI 活用)など



- 事業戦略からまちづくりまで -

社会インフラ部会

対象者: 一般製造業や建設業など、社会インフラに携わる方

主 査: 木守 岳広〔パシフィックコンサルタンツ株式会社 VEセンター〕

社会インフラに携わる方々、VE活動の導入や進め方などを気軽に検討したい方々を対象として、様々な情報交換を行いつつ、下記の(A)(B)2つの分科会活動を展開します。

参加メンバー相互の情報交換と技法の学習と実践を通じて、社会のニーズに応えるVE活動に必要なスキルアップを図り、社会に貢献することを目的とします。

(A)「企業ケース検討会」 リーダー: JFCA/IHI・薄衣

ポーター賞を受賞した企業の分析を基に、優良企業の経営ノウハウを検討し、マニュアル化を視野に入れ、VE手法の新しい活用方法を検討しています。

(B)「建設VE研究会」 リーダー: フジタ・曽我

社会インフラの整備やまちづくりにVE手法を適用するための方法や手法を検討し、資料を作成します。今年度は、「道の駅の計画」、「短時間VE手法」、「フューチャーデザイン」を中心に活動を進めます。



★ 部会ごとの定例会合以外にメンバー限定の特典もあります。どうぞ奮ってご参加ください。

- 1) 年数回行われる「事業所見学会」や「特別講演会」に無料で参加できます。先進的なVE活動や効率的な生産システム構築を行っている企業の取り組みを学んだり、VE関連技法や話題のテクノロジーについて知見を広げることができます。
- 2) 毎年3月に行われる「活動報告会」に無料で参加でき、講演者や他の部会に登録しているメンバーとの意見交換や情報交流がはかれます。

